
優美な蝶は檻の中

隆月

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

優美な蝶は檻の中

【Nコード】

N5785F

【作者名】

隆月

【あらすじ】

ある一見普通の私立高校に有名な財閥のおぼちゃまがなぜか入学していた。彼の自由奔放な性格に振り回される俺。くくく先生く、こいつ誰ですか！

ブローグ

一見普通の入学式後の出来事だった。

「初めまして。私、夕風 紅といいます。皆さん、よろしく」

教室に沈黙が流れたのは、他でもない。

今、俺達の前でしゃっべてる美青年のせいだ。

俺は確信したよ。今、この教室にいる、

まだ初めてあつて、数時間の教室に入る生徒はあっけにとられた後、

みんな同じことを心の中で叫んだに違いない。

・・・お前、誰だよ

そう、僕の学生生活は

この、仮称 美少年君ハリケーンに影響されるのであった。

並木道で

心地よい風が通る並木道

・・・なんてないけど、

風が吹きぬける通学路を僕は歩いていた。

さあ、この辺で自己紹介しますか。

え、ダレに言ってるかって、

お決まりだから、気にしないでください。

僕の名前は唐沢^{カラサワ}有^{ナオ}。

自分でゆーのもなんだけど、

僕っていう1人称は気にいってるし、譲れない。

俺でもウチでもないし。

んで、ここは月影高校。今日から僕が通う高校だ。

そう、今日は高校の入学式。

んん、寒。今4月だよね

前の玄関付近に新入生が集まってる、

クラス分けかな。僕も早くいこ。

そして、僕が走ろうとした時の事だった。

「そこ、どーいーてー」

後ろから、結構な美少年が走ってきた。

僕と同じネクタイって事は同じ新入生か・

でもなんか、すごい急いでるみたいだ、、

ダ、ダ、ダ。

「・・・ゲホ、ゲホ、ゲホ」

なんか、俺の目の前でむせ始めたよおお。

どんくらい走ってきたんだろ・・・

こーゆー場合って助けた方がいいよね。

自分でもお節的な性格だって思うけど、

見てると、やっぱりほつとけない。

「だ、大丈夫ですか？」

「み、水・・・」

確か、バツクの中にお茶があつたはずだ。

「はい、どうぞ」

彼は、かなりの早さでお茶を飲み干した。

「ああああ、死ぬかと思った。」

そして、初めてこつちを向いた。

「ありがと。全力疾走なんてするもんじゃないね」

「はああ・・・」

「とにかくありがと。この埋め合わせは・・・」

なぜか顔が青ざめていく。

振り返つて校門の方を見ると、黒いベンツが何台も来ていた。

「どうしたんですか。」

「ゴメン、急いでたの忘れてた・・・。また後で・・・」

また、玄関のほうに全力疾走していった。

今さっき、するもんじゃないって言ったばかりじゃん。

それにしても、なんだったんだろう。あそこの、ベンツも気になるし。

ま、いつか・・・

さて、気を取り直して、入学式に望みますか。

並木道で（後書き）

初めまして、隆月といひます。

初めての投稿なので誤字、脱字あるかも知れないので、見つかりしだい報告お願いします。

では今後、よろしくお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5785f/>

優美な蝶は檻の中

2011年1月9日07時03分発行